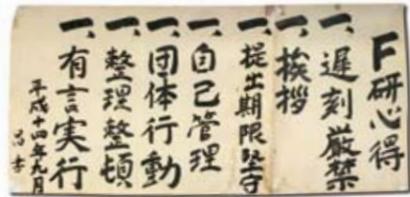




安井リーダー、ものづくりを語る

ものづくりで大切なことは、なぜこの形なのか、なぜこの大きさなのかを納得できるまで考えることです。機械を使うのは人間です。ものづくりは作り手の自己満足ではなく、必ずそれを使う側のことを考える必要があるんです。ものをとおして人とのコミュニケーションを感じることが設計者の心得として大切です。



(写真左) エンジン性能試験機 (写真右) 大学内にある車輛組立て作業場 (写真下) 第6回全日本学生フォーミュラ大会(2008年)全日程を終えて



学生たちの情熱研究



金沢大学フォーミュラ研究会の挑戦

金沢大学フォーミュラ研究会(以下、F研)は、競技用の小型フォーミュラカーを学生だけでつくってしまうサークルです。マシンの総合的な能力を点数で競う「全日本学生フォーミュラ大会」に参加することを目的としています。2005年に念願の日本一に輝きました。少しでも速く、軽く。彼らのマシンには、ものづくりへの情熱が込められています。

夢とチームワークの結晶

「F研のマシンは、メンバー一人ひとりの夢とチームワークの結晶です」と語るのはリーダーの安井潤一郎さん(工学部4年)。車輛はエンジン、シャシー(足回り)、コックピットの3班で製作。担当しているのは全て理工系の学生です。エンジン班は出力向上と燃費の改善、シャシー班は軽量化、コックピットの向上をめざしています。しかし、軽量化を求めれば強度の低下を招くなど、ぎりぎりの見極めを必要とする場面も多く、その調整は大会直前まで行われます。そんな中で誕生する世界に一台のマシン。「徹夜してつくった部品を載せ、車が無事に走った瞬間が一番うれい」とメンバーは語ります。

耐久走行を制する高い信頼性

大会のメインは耐久走行。「エンジンデラタンス」と呼ばれ、車輛の加速や旋回性能、耐久性、ドライバーの運転技術など、チームの総合能力が問われる競技です。走行時間は30分弱ですが、参加チームの半数以上がリタイアする過酷な競技で

全日本学生フォーミュラ大会とは

学生たちがフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを製作し、走行性能だけでなく、車輛のマーケティング、企画・設計・製作、コストなどのものづくりにおける総合評価を競う大会。自動車産業の発展と人材育成を目的に、実践の場として開催されている。2008年には6回目の開催を迎え、エントリーチームは70を超えた。米国が1981年から開催したフォーミュラ大会「FormulaSAE」の日本版といわれている。

第7回全日本学生フォーミュラ大会

開催日: 2009年9月9日(水)~12日(土)
会場: 小笠山総合運動公園エコパ(静岡県)
<http://www.jsae.or.jp/formula/jp/>

F研の年間スケジュール

- 9月~11月 設計。パソコン上でパーツの図面を書き、部品の強度を計算し、車輛の形を決める。
- 12月~2月 昔の部品を流用して試作機の製作。フレームは新しくつく。
- 3月~4月 試作機と設計とのデータを比較し、本番用車輛をつくる。設計どおりにいかずエラーが出れば直していく。
- 5月 本番用車輛を仕上げる。
- 6月~8月 車輛走行試験をしながら、コンピュータ処理の調節、部品の不具合を直す。
- 9月 本番

■金沢大学フォーミュラ研究会 <http://www.kanazawa-formula.com/>

受け継がれるものづくりの精神

金沢大学のF研は、第1回大会から出場し一度も車が壊れなかった唯一のチームです。これは、先輩から受け継がれたものづくりの精神によるものといえます。今はパソコンや部品の強度解析ソフトも発達し、しっかりと知識が無くとも部品の設計が出来る時代。しかし、開発現場で生まれる改善や発想は正しい知識と探究心がないと生まれません。研究としてのものづくりを行っているからこそ、本質を理解、考察することが重要」と安井さんは強調します。F研の2009年の車輛コンセプトは「Total Performance」。チームの結束とものづくりへの真摯な姿勢で更なる高みをめざします。

Formura R&D since 2002

過去の成績

- 第6回大会** 2008年
総合成績3位 得点805.01/1000
特別賞 自動車工業会会長賞
- 第5回大会** 2007年
総合成績3位 得点765.96/1000
特別賞 安全設計特別賞2位、環境・安全・教育特別賞3位、静岡県知事賞
- 第4回大会** 2006年
総合成績11位 得点672.4/1000
特別賞 日本自動車工業会 会長賞(環境安全・教育特別賞)2位
アメリカ世界大会「2006 Formula SAE」に参戦
- 第3回大会** 2005年
総合成績1位 得点819.5/1000
特別賞 ベストWEBサイト賞2位、FISITA賞、経済産業大臣賞
- 第2回大会** 2004年
総合成績8位 得点524.1/1000
- 第1回大会** 2003年
総合成績6位 得点524.8/1000



Q5 キャンパス内のお気に入りスポットは?



Q1

金沢大学を選んだ理由は?

Q2

金沢大学に来て驚いたことは?

Q3

学生生活で熱中していることは?

Q4

将来の夢は?



聞きたい! 知りたい! 金大生ひと言インタビュー

金沢大学に集う10000人以上の学生たち。彼らは何を感じ、何を夢見てキャンパスライフを送っているのでしょうか。今回、アカンサスポータルとリンクしてインタビューを実施!「金大生のナマの声」を集めました!

インタビューの告知を行いました

アカンサスポータルとは

金沢大学が提供する学生支援Webサイト。大学・教員と学生をつなぐコミュニケーションツールとして活用されています。

【主な機能】
電子掲示板・メッセージ送受信・電子時間割・授業での配布資料の共有・学生自身による授業活動記録

サークル紹介

人生を語る言葉の一つひとつを紡ぐ 聞き書きサークル「星ことば」



山田さん(右)とメンバーの丸山佳苗さん(保健学類2年)



作家・小田豊二さんを招いての「聞き書き講座」

高齢者などを対象に人生を語ってもらい、その話や言葉をまとめ、「生きてきた証」として本人に渡す「聞き書き」。語ることは人生を肯定的に捉えることにつながるため、医療福祉分野でも心のケアとして注目されている手法だ。

サークル結成の中心となったのは5年の看護師経験をもつ山田奈津子さん(保健学科4年)。看護師時代は時間と業務に追われ、「患者さんの想いに寄り添えていないのではないかと感じていた。ボランティア活動を通じて知った「聞き書き」ならこの問題に応えられると考えた山田さんは、榊原千秋助教(医薬保健学域)の「聞き書き講座」に参加。そこに集まった看護学を専攻する学生たちとともに、2009年4月、「星ことば」を立ち上げた。

活動はメンバーのスキルアップと広報から開始。作家・小田豊二さんの「聞き書き講座」で「話の聞き出し方」など基礎を磨くとともに、病院などで語り手を募った。手探りの活動だったが、無口だと言われていた患者さんが昔のことを語り出し、気管切開で話すことができない患者さんとはメールやジェスチャーで会話することができた。小田さんからは「相手から聞く姿勢が出来てきたね」と励まされた。聞き書きでは、技術とともにお互いの信頼づくりが重要であることをメンバーは身をもって学んだ。

「聞き書き」は世代を超えた交流を生み出す。活動をとおして新たな出会いが生まれ、つながり、広がっていくことをメンバーは期待している。

「星ことば」へのお問合せ ● jsbxs356@ybb.ne.jp

キャンパスライフを豊かにし、かけがえのない仲間と出会う 金沢大学サークルリスト(大学公認)

金沢大学には、大学公認、学部公認あわせて130あまりのサークルがあり、約4,000名の学生が活動しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/

体育系	文化系
陸上競技部	英語会話研究会 (ESS)
体操競技部	フィルハーモニー管弦楽団
テニス部	映画研究会
ソフトテニス部	マンドリンクラブ
硬式野球部	文芸部
卓球部	囲碁部
バドミントン部	合唱団
男子バスケットボール部	クラシカル音楽研究会
女子バスケットボール部	書道部
男子バレーボール部	将棋部
女子バレーボール部	ユースホステルクラブ
サッカー部	美術部
ラグビーフットボール部	写真部
ハンドボール部	竹糸会
柔道部	国際問題研究会
剣道部	ネーチャーコーポレーション
空手道部	琴尺八部
弓道部	M・J・S (モダンジャズソサエティ)
馬術部	落語研究会
水泳部	考古学研究会
漕艇部 (ボート部)	新聞会
	児童文化部
	子ども会サークル「つみき」
	マルクス主義研究会
	Y・P・A (軽音楽部)
	サイクリングクラブ
	マンガ・アニメ・SF 同好会
	社会科学研究会
	児童くらぶ ひこうせん
	鉄道愛好会
	茶道部
	吹奏楽団
	聖書研究会
	らくだの会 (演劇部)
	宝生会
	メロメロ (アカバヤサークル)
	放送研究会
	J・M・C (ジャグリングアンドマジックサークル)
	BBS会
	セカンド・ユース



サークルに関するお問合せ ● 学生部学務課学生相談係(076)264-5168

Student Interview 学生インタビュー



金沢大学経済学部経済学科4年

長瀬沙織

NAGASE Saori



SIPsの打ち合わせ風景

「衝撃でした、こんなことを学生がやっているなんて」。
長瀬さんが学生団体SIPsを知ったのは3年の春。就職活動が間近になり、大学生活において自分自身の成長を示せるものがほしいと感じていた。
そんなとき、経済学部の先輩である先代のSIPs代表から活動内容について話を聞く機会があった。その企画・運営の質の高さは学生が手がけているものとは思えず、長瀬さんに驚きを与えた。また、発想力豊かな人柄に触れ、「同じ学生でもここまで違うのか」とカリスマ性のようなものを感じ、尊敬の念を抱かずにはいられなかった。長瀬さんは「自分もそうになりたい」と心から思った。

SIPsの成長

目標を持ってそこに突き進む。SIPsのそんな姿勢や考え方に惹かれ、長瀬さんは自らも参加する決心をした。

多様な企画で学生の就職を支援

SIPsの主な活動は学生の就職支援。エントリーシートの書き方を学び、実際に企業の採用担当者や模擬面接を体験できるセミナーや論理的思考を学ぶための講義型セミナーなどを開催している。SIPsが企画するセミナーは、「就職活動のテクニック」に関するものだけではない。企業関係者を招き、学生と少人数でのコミュニケーションを取れるような場

を設けたり、大学院進学が就職かで迷う理系学生を対象に、大学院生と企業関係者から同時に話を聞くことができるセミナーを開催するなど、その形態はさまざまだ。
リーダーとしての自覚と成長
長瀬さんが初めて企画から運営までリーダーとして携わったのは、2008年10月に開催された教員交流会だ。教員をめぐる周りの学生が教育現場への不安を抱えていること知り、実習だけではつかめないような、もっと深い部分まで理解できる場を設けたら彼らにとってプラスになるのでは、と考えたことがきっかけだった。

しかし、参加する教員が思うように集まらず苦労したという。「これまでの自分だったら何人か集まったからそれでいいや、と妥協していたと思います」。

長瀬さんにとってこの企画は必ず成功させたいものだった。リーダーとしての責任もある。目標人数を絶対にクリアするという決意を胸に、数々の学校に向向いて企画を説明し、たとえ駄目でもすぐに次の学校へ足を運んだ。

その結果、セミナーに5人の教員と20人の参加学生を集めることに成功した。「生徒とどう接すればいいのか」「保護者への対応方法」といった具体的な内容について教員を交えて語り合ったことで参加学生からは満足の声が聞かれた。小さくではあるが新聞にも取り上げられ、達成感を得たという長瀬さん。

「以前は多少のことで諦めてしまっていたので、自分自身が変わったことを実感しました」。

新しい自分への一歩

「まずやってみるといことが第一です。楽しいことだけを選んでいては自分自身の成長はありません。積極的に一歩踏み出すことが大切だと思います」。

SIPsでの活動をとおし、長瀬さんは自ら進んで動くことの大切さを学んだ。失敗を恐れずに行動することで、積極性や自立性が身についたという。

長瀬さんは卒業後、県内企業で営業として勤務する予定だ。残された大学生活で「さまざまな価値観を持った人々と関わりたい」と、自分を高め続ける意欲を語った。



長瀬さんがリーダーを務めた教員交流会の参加メンバー

長瀬沙織さんプロフィール

1987年生まれ。石川県出身。高校時代に経済に興味を持ち、経済学部を選んだ。地域に貢献したいと考える。入学時点から地元で就職希望。専門は経営情報論。

■SIPs ホームページ <http://www.sipsgroup.org/>

キャンパス・タイムスリップ

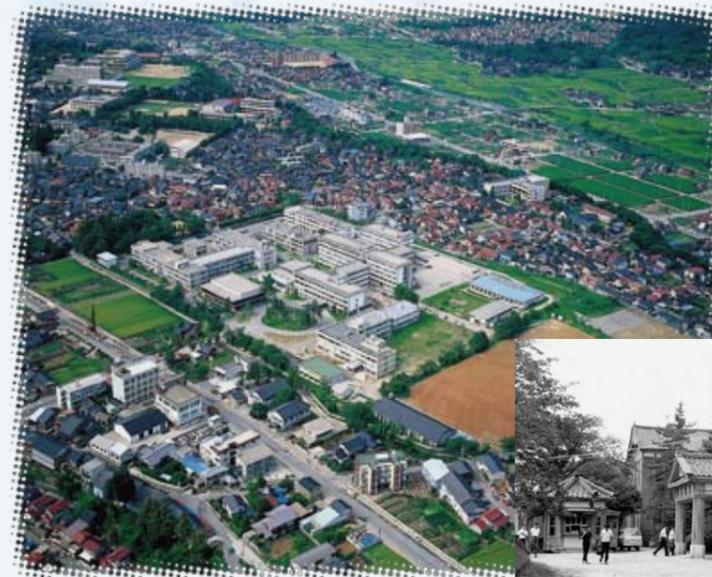
④ 小立野地区編

第四高等学校をはじめ、金沢大学にはいくつかの前身校があります。その中のひとつ、工学部の母体となったのが金沢高等工業学校です。金沢市の南東部、犀川と浅野川にはさまれた小立野台地に開学しました。今回の「キャンパス・タイムスリップ」は、工業学校時代から80年以上にわたって学都の一角を担った小立野地区の歴史を振り返ります。

北陸初の工業学校から工学部へ

金沢高等工業学校が設置されたのは1921年。第一次世界大戦後の急速な産業発展を背景に、重工業や化学部門における技術者の需要が高まっていた時代でした。北陸にはそれまで文部省直轄の実業教育機関がなく、県市はもとより、商工会議所や新聞各社までもが積極的に誘致活動を展開。その結果、高等工業学校の新設地として広島・横濱とともに金沢が選ばれました。

開校後、学科の増設や金沢工業専門学校への改称を経て、1949年の大学設置により金沢大学工学部へと昇格。土木工学、機械工学、工業化学、化学機械工学、電気工学の5学科体制で新たなスタートを切りました。



施設整備を終えた工学部キャンパス



大学設置当時は工業専門学校の木造校舎をそのまま使用していた(1967年卒業アルバム)

あの頃コラム 01

工業学校 開校記念展覧会

全ての校舎が完成し、全3学年が揃った1923年、金沢高等工業学校の開校式が盛大に行われました。併せて、各学科が趣向を凝らした記念展覧会も開催。北陸に誕生した近代科学教育機関への関心は高く、来場者は2日間で約10万人に達したそうです。



記念展覧会のゲート。来場者の中には和服姿の女性も見える

工学部キャンパスの発展

工学部の校舎は大半が大正時代建てられたが戦時中に増築されたものであり、老朽化が目立っていました。1950年代後半、科学技術振興のために国から理工系学生の増員を要請されると、工学部はこれに呼応。さらに精密工学科と電子工学科の新設が決まり、合わせて160名を増員することになりました。これを受け、59年から10年にわたる工学部近代化計画が始動。木造の各校舎は次々と鉄筋コンクリートに生まれ変わりました。また、65年には工学研究科が設置され、工学部キャンパスは施設・体制の両面で充実しました。

小立野地区の工学部キャンパスでは、春には敷地を囲む桜夏には校舎の屋上から犀川の火花を築むことができました。白衣を着た化学系の学生やツナギを着た機械系の学生が混在しており、城内キャンパスとは随分違った雰囲気でしたね。

思い出深いのは毎年行われた学科対抗の運動会。酒・タバコ・麻雀が障害物となる「三悪競争」といった、今ではとても考えられないような競技がありました。

大学院修了後も工学部で教鞭を取り、角間への移転の際には学科全体の引越越しを指揮しました。新しい研究室は自分たちで内装を設計したため使い勝手が良く、絶好の研究環境となっていました。移転の苦労が報われました。

小立野地区の思い出

東京ドロウイング(株) CADセンター 寺井 幸子さん



共通教育課程を修了した後、小立野地区で専門課程を学びました。学生はよく研究室に集まっていたので、当時は飲食が許されていたので、皆で鍋を囲んで卒論に取り組みました。

いろいろな実習も良い思い出です。男性用のツナギを着て溶接の実習を受けましたし、原付バイクを分解して組み立てる「解剖実習」では、配線を間違えて左右逆にウインカーが点くバイクを完成させてしまったこともありました。

授業で製図やCADを学んだことがきっかけとなり、基板設計の仕事に就きました。実習を含め、大学での幅広い学びによって自分の可能性が広がったと思います。

当時、金沢大学は金沢城跡地をメインキャンパスとして使用していましたが、必要な校地面積を満たしているとは言えません。そこで1970年代に浮上したのが「総合移転計画」です。小立野地区は城内キャンパスほど敷地に関する問題を抱えてはいませんが、総合大学としての発展のため、工学部は他学部とともに同じキャンパスへ移転することに同意しました。

角間キャンパスへの移転

統合や新設などにより6学科となっていた工学部では、まず8月に物質化学工学科が移転。大型機器や実験装置を数多く有する学部だけに、搬出入にクレーンを使用するなど人手と時間を要しました。移転作業は授業期間を避けて行われ、全6学科の移転が完了したのは1年後のことでした。

移転先となった角間キャンパス自然科学研究棟(通称「自然研」)は、斬新なデザインを誇る近未来的な建物。最先端の教育・研究施設として機能しています。

1979年、総合移転計画が発表され、移転先に金沢市角間地区が選ばれました。城内キャンパスの各学部は89年から順次角間へ移転。工学部キャンパスの移転は、第II期事業において2004年に始まりました。

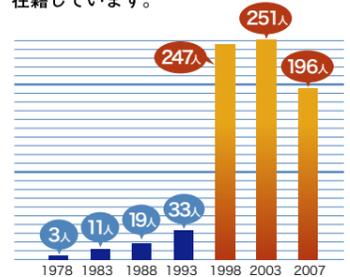


移転後の工学部校舎となった自然科学研究棟の外観(上)と内部(下)

あの頃コラム 02

工学部女子学生事情

「男の学部」というイメージが強い工学部。金沢大学においても、開校から18年間は男子一辺倒の世界でした。記念すべき女子学生第1号は1967年、精密工学科に入学。74・76年にも1名が、78年以降は毎年複数人が入学しています。近年では工学部生の約10%が女子学生。物質化学工学科、次いで土木建設工学科に多く在籍しています。



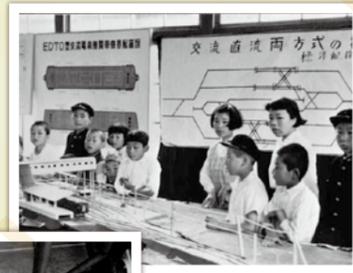
工学部女子学生数推移 ※2008年度より工学部は理工学域へ改組

フォトアルバム Photo album

今で言うオープンキャンパスに当たる「工学展」。大勢の子どもたちで賑わった

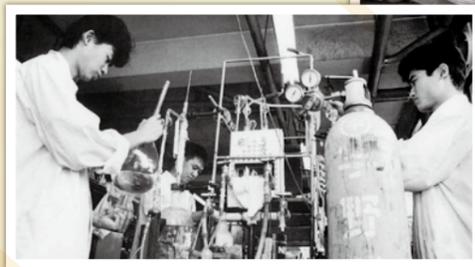


1953年 運動会では自転車レースが行われたことも



1957年

白衣にフラスコを持って実験。薬学部ではなく工学部です





先進医学マネジメント山崎代表取締役(左), 中村学長(中央), 北國銀行安宅頭取(右)

3月
■交流協定
 中国・北京語言大学と大学間交流協定を締結

4月
 理工学域が中国・浙江大學理学部と部局間交流協定を締結

■その他の連携・協定
3月
 「金沢先進医学センター整備事業実施計画書」を承認
 附属病院敷地内に建設する「金沢先進医学センター」整備事業について、事業計画の提案者である株式会社先進医学マネジメントと運営管理アドバイザーである株式会社北國銀行との間で確認書を取り交わしました。

4月
■受賞
 医薬保健研究域・松井修教授が文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞
 「肝細胞癌早期診断法と画像画像下治療法の研究」の功績が認められたものです。今後、肝臓の早期発見と治療成績向上に寄与することが期待されます。



石川県と国立大学法人金沢大学 包括連携！ 特別講座の設置に

4月
■交流協定
 石川県と包括連携協定および寄附講座の設置に関する協定を締結
 県との緊密な連携協力により、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的としています。また、包括協定の一環として、将来の地域医療を担う医師の養成と医療提供体制の充実をめざす寄附講座を設置する協定を締結しました。

3月
■研究・教育実績
 電子スピニングが起立する新しい量子効果を観測
 理工研究域の小田電樹准教授らを中心とした研究チームは、半導体表面に寝ていると考えられていた電子スピニングが、突如表面に屹立することを世界で初めて観測しました。



馬淵特任教授(中央)

6月
■研究・教育実績
 大学院医学系研究科・馬淵宏特任教授が第15回国際動脈硬化学会で学会特別賞を受賞
 「スタチンの臨床応用とコレステロール転送蛋白(CETP)欠損症の発見」の功績が認められました。

平成21年度科学研究費補助金採択件数ランキング(新規採択)

機関名	採択件数
1 東京大学	1,093
2 京都大学	855
3 東北大学	754
4 大阪大学	747
5 九州大学	601
6 北海道大学	562
7 名古屋大学	444
8 筑波大学	395
9 広島大学	338
10 慶應義塾大学	318
11 神戸大学	282
12 東京工業大学	276
13 岡山大学	245
14 千葉大学	237
15 独立行政法人理化学研究所	235
15 早稲田大学	235
17 金沢大学	217
18 新潟大学	209
19 長崎大学	206
20 徳島大学	193

注) 研究代表者の所属する大学等により整理(文部科学省研究振興局学術研究助成課)



カザン大学 ミヤクジウム・サラホフ学長(左)と鈴木特任教授(右)

4月
 平成21年春の叙勲で大学の名誉教授ら4名が受賞
 瑞宝中綬章(教育研究功労)
 宮崎元一 名誉教授
 小堀爲雄 名誉教授
 田邊宗一 名誉教授
 瑞宝単光章(看護業務功労)
 広瀬育子 元副看護部長

6月
 理工研究域・鈴木治彦特任教授がロシア・カザン大学名誉博士号を授与
 教育研究の充実と国際協力発展への寄与が評価されました。

■科学研究費補助金
 平成21年度科学研究費補助金新規採択件数ランキング17位
 日本の学術振興のために優れた研究を支援することを目的に設けられた科学研究費補助金。平成21年度は、金沢大学から新規217件(交付金額7億1466万円)、新規および継続を合わせ547件(交付金額15億9128万円)が採択されました。

■公務員試験
 平成21年度国家公務員採用I種試験合格者10名
■科学研究費補助金
 平成21年度科学研究費補助金新規採択件数ランキング17位
 日本の学術振興のために優れた研究を支援することを目的に設けられた科学研究費補助金。平成21年度は、金沢大学から新規217件(交付金額7億1466万円)、新規および継続を合わせ547件(交付金額15億9128万円)が採択されました。

科学雑誌Newtonに記事掲載
 理工研究域の徳田規夫助教授らの研究チームは世界最小0.2ナノメートルのダイヤモンド製、物差しを作成。2009年6月26日発売のNewtonに紹介されました。



石川四高記念文化交流館



昭和初期、四高での講義風景

輝かしい歴史と「超然」の精神
四高同窓会
 本学の前身第四高等学校の卒業生が集う四高同窓会。閉校から約60年を経て、その存在は本学と金沢に深く根付いています。
 第四高等学校は、1887年(明治20年)に開学した旧制高校です。当時、日本に5つしかない高等教育機関として、全国から優秀な人材を集め、金沢が学都として大きく発展する原動力となりました。また、市民の寄附によって誘致された学校でもあり、地域に愛されていました。
 弊衣破帽、高下駄を履いて町を練り歩くパンカラな学生たち。地域は彼らを「やんちゃな息子」として可愛がり、学生もそれに応え、各界のリリーダとなるべく学業に励みました。「寮は夜の10時に消灯になり、後は、蠟燭」といって蠟燭の明かりで勉強しました。
 当時を語るには四高同窓会事務局長の喜田惣一郎さん。試験も厳しく100点満点中50点以下は「大注」、50〜60点は「小注」となり、大注が一つでもあった学生は即落第。小注も2〜3積み重なる落第。さらに2年連続の落第は退学と決まっていた。
 みな必死で勉強しましたが、最短3年間のところ、4年や5年をかけて卒業する学生が多くなりました。そのせいか、「大注」をもらっても落ち込んだり

はせず、学生時代の「勲章」だと誇る声も聞かれたそうです。世論に流されたい。腰を据え、自分の信念を貫く。その「超然」の精神を胸に、今もなお2000人前後の同窓生が親交を深め合っています。全国的な活動は2006年の開学120年祭全国大会を持って終了しましたが、今も各地で懇親会や寮歌祭など同窓生による催しが行われています。80歳を超える同窓生も、いざ会が始まると背筋がしゃんと伸び、寮歌を声高らかに歌い上げます。それは、金沢で過ごした四高時代が、かけがえのない時間であった証明なのです。2008年、金沢市の中心部に石川四高記念文化交流館がオープンし、四高の名と学び舎が新しい歴史を刻み始めました。
 喜田さんは言います。「名前と建物は残りましたが、そして、四高の精神も、金沢大学に引き継がれています。時代は流れ、世代は変わりま



喜田惣一郎 事務局長
 1948年に第四高等学校に入学。翌年、新生金沢大学の設置に伴い理学部に入学。四高生であると同時に本学の第一期生。

Activity report

活動報告 2009 04 ~ 07

4/9 四高桜開花
 角間キャンパスで四高桜が開花

*四高桜
 四高漕艇部遭難を悼んで琵琶湖湖畔に植えられた桜。2009年3月に「四高桜を守る会」により、角間キャンパスにその子孫が植樹された。

5/9 北陸銀行卒業生の会
 金沢工業会評議員会

5/16 薬学同窓会評議員会・総会・懇親会
 北の都会大会09
 金沢大学学歌制定50周年記念大会

6/3 法経文同窓会名古屋支部総会
 法経文同窓会名古屋支部総会

6/6 薬学同窓会総会
 法経文同窓会名古屋支部総会

6/13 金沢工業会富山支部総会
 十全同窓会総会

7/3 法経文同窓会全国総会
 法経34会卒業後50年記念大会

8/22 北國銀行同窓会「北國都会」
 北の都会総会 関東・東京地区2009合同懇親会

9/12 北の都会総会 関東・東京地区2009合同懇親会

9/26 北の都会総会 関東・東京地区2009合同懇親会

○活動スケジュール
 10月31日(土)開催決定!
 ○第3回ホームカミングデー

同窓会の人的ネットワークを活用し、有意義な人生を

[金沢大学同窓会連絡協議会参加の同窓会]

■法経文同窓会 TEL(076)264-1667
 ■教育学部同窓会 TEL(076)264-5081 (学友支援室気付)
 ■理学部同窓会連絡会 TEL(080)1620-8154 (財)豊田理化学研究所気付
 ■医学部十全同窓会 TEL(076)265-2132
 ■医学部保健学科 つるま同窓会 TEL(076)265-2504
 ■薬学同窓会 TEL(076)260-6366
 ■金沢工業会 TEL(076)264-0482
 ■四高同窓会 TEL(076)262-5464 (石川四高記念文化交流館内)

金沢大学は、卒業生を大学の重要な構成員と位置付け、連絡協議会に未参加の前身校同窓会、入学・卒業同期会、学科・研究室同窓会、学寮やサークルOB・OG会等の参加を得て、より強固な全学同窓会組織(学友会)の確立をめざしています。
 新たな同窓会結成などの情報がありましたら、学友支援室へご一報願います。

〔事務局〕金沢大学学友支援室 TEL:076-264-5081 FAX:076-234-4021
 〒920-1192 石川県金沢市角間町 E-mail:gakuyuu@ad.kanazawa-u.ac.jp

●卒業生向けホームページ
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/internal/graduate/index.html>

NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

April 4月

4/3 中国・天津市生物医学研究所副
所長が学長を表敬



4/6 角間キャンパスに構内道路1号
線全線開通

4/10 国連大学高等研究所長が本学を
視察
ゴビインダン・パライル国連大学高等研
究所長が里山プロジェクトの実習地など
を視察しました。

4/11 能登里山マイスター入講式を
挙行
環境に配慮した農林水産業や地域活性
化のリーダーをめざします。

4/14 いしかわシティカレッジで授業
開始
県外出身者が多い医薬保健学域薬学類・
創薬科学類の1年生を対象に金沢のまち
なかで授業を行います。

4/23 第60回金沢大学あひだ暁烏記念式お
よび記念講演を開催
4/24 能登里山マイスター養成プログ
ラムの地域づくり支援講座で谷
本石川県知事が講義

4/7 平成21年度入学宣誓式

学域生1821名、別科36名編入学
95名、大学院798名が入学。

学域会場・金沢歌劇座
大学院会場・十全講堂



21年度 金沢大学入学宣誓式



4/23 いしかわグリーン・ウェブ
2009を開催
国連の生物多様性条約事務局の呼びか
けによる植樹活動グリーン・ウェブを
開催。コナラとクスギの苗木を植えました。



植樹するアフメド・ジョグラフィ国連生物多様性条約事務局長(中央)

5/25~26 薬用植物園にてシャクヤク観
察会を開催



5/22 インターシップ入門ガイダン
スに250名が参加



5/29 平成21年度金沢大学名誉教授称
号記授与式を挙行



4/24~5/7 学生里山サークル「ラクーン」
がタケノコ掘り
里山リテラシープロジェクトの第1号
企画として、角間キャンパス内にある竹林
の保全活動である「タケノコ掘り」を行
いました。



4/25 金沢大学附属病院完成記念行事
を挙行
新外来診療棟は5月7日にオープンし、
安全で質の高い医療の提供をめざします。



June 6月

6/4 角間キャンパス屋外緑化2009
を実施

6/5 明後日朝顔プロジェクト2009
金沢in金沢大学中央図書館
アーティストの日比野克彦氏の基本理
念に賛同し、たくさんの記憶が詰まった種
を譲りうけて中央図書館で実施しました。



6/5 金沢先進医学センターの起工式
を挙行

6/6 第58回金沢百万石まつりの
二百萬石踊り流しに参加の留学
生が「いいね金沢賞」を受賞



6/6 フィルハーモニー管弦楽団が第
34回サマーコンサートを開催

4/27 健康増進科学センター開所式を
挙行
「地域連携による健康増進科学の展開」
の中核として設置されました。

May 5月

5/7 ゲント大学日本語学科の学生20
名と本学学生が交流
「角間の里」で金沢の伝統工芸である金
箔貼りを一緒に体験しました。



5/8 ドイツ連邦共和国大使が学長を
表敬



6/11 第8回北陸ポストゲノム研究
フォーラムを開催

6/12 学生・院生向け「パテントセミ
ナー」を開催
発明のアイデア抽出から特許出願まで
の実践教育を行いました。

6/15 健寿会総会を開催
事務系退職者で組織している「健寿会」
の会員が集まり懇談しました。

6/17 プリンストン大学等の学生との
交流会を実施
「短期間石川県で学ぶ日本留学プログ
ラム」で3人で来県したプリンストン、ハー
バード、コロンビア、イェール等の大学生
と本学学生が交流を深めました。



July 7月

7/1 平成21年度全学FD・SD研修
会へ新任教員を中心としてくを
実施

7/8 講演会「女性研究者を養成する
しくみ」プリンストン大学から
の提言」を開催